

幽霊

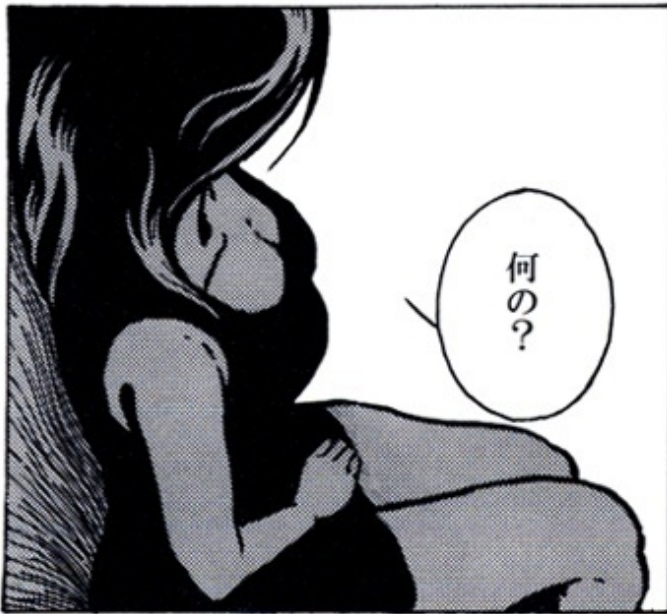
片桐 ナントカ

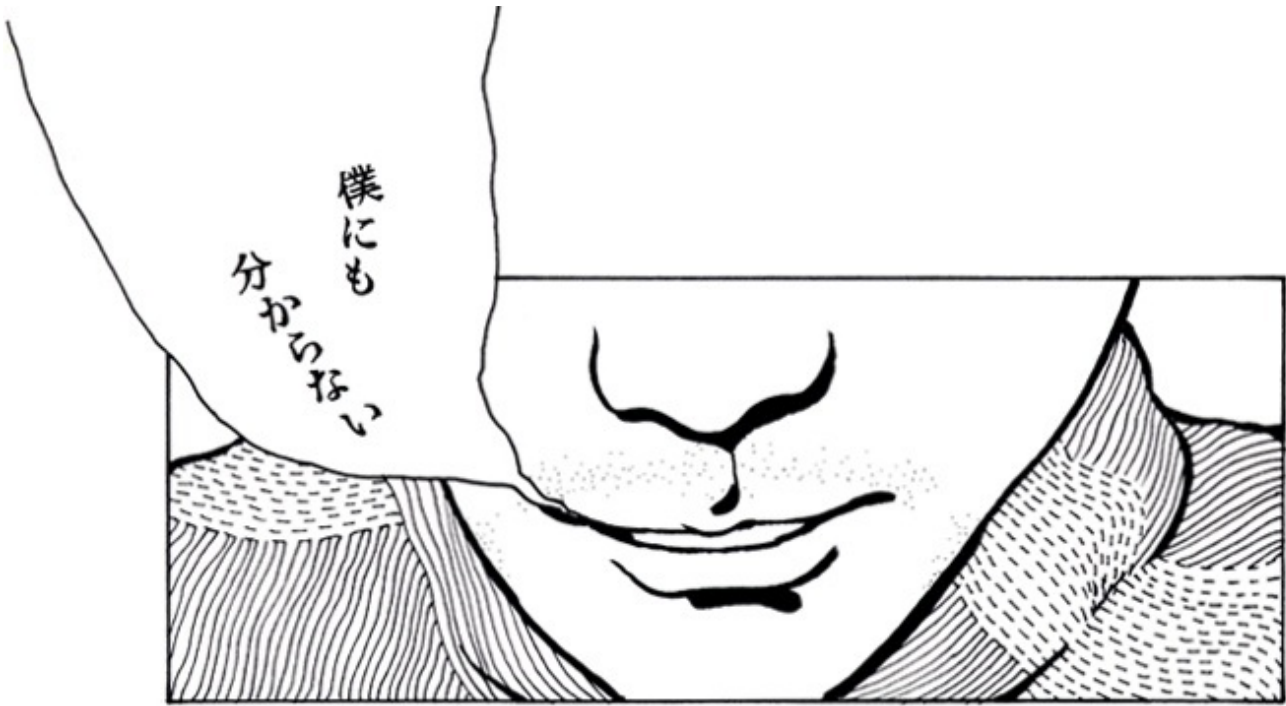




サニー製、  
ペン型、  
五十時間録音可能

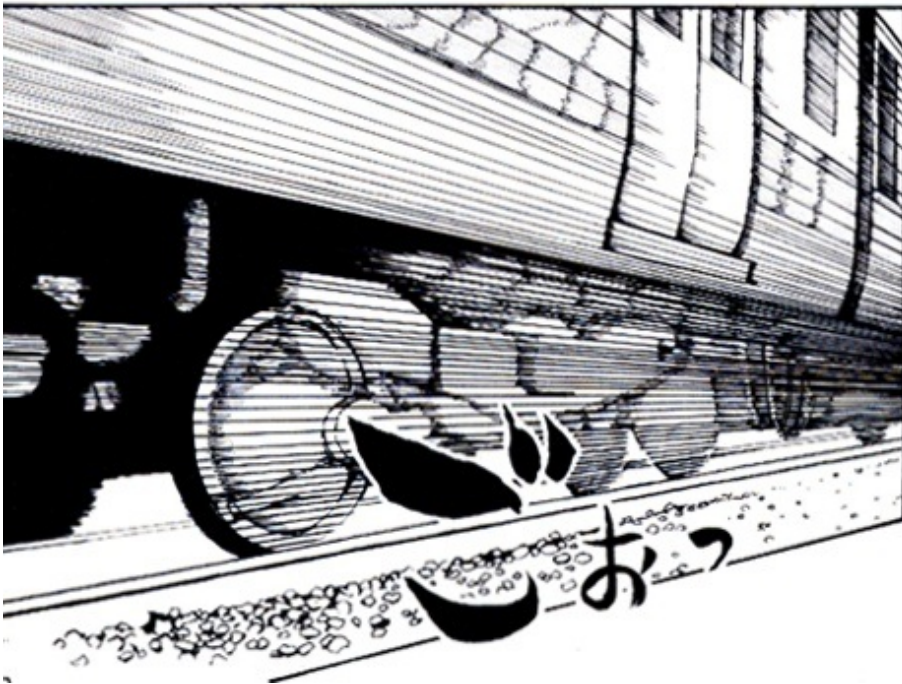






僕にも  
分かるかい

僕にも分からない  
でも、  
聞き返すことができれば、  
自信が持てる  
……かもしれない



アッ  
アッ  
アッ





信じるってのは盲目になること  
 じゃないだろ？  
 俺はあいつが見境なく盛ってる男  
 じゃないことを知ってるし、  
 お前が興味本位に色目を使っ  
 てることも知ってる



どういう事!?  
 娘が信じられないの？



何より、

何よりも、  
 俺は俺の感覚を  
 信じてる

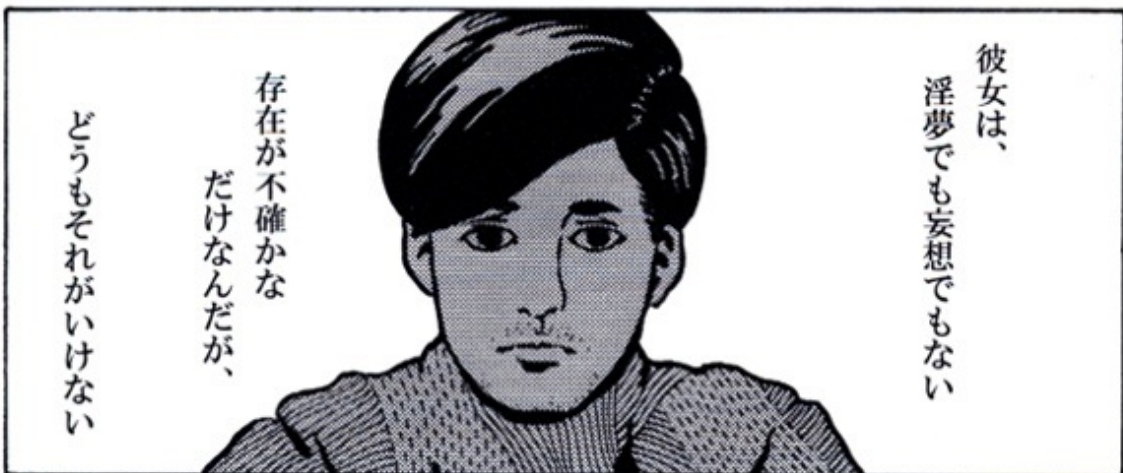
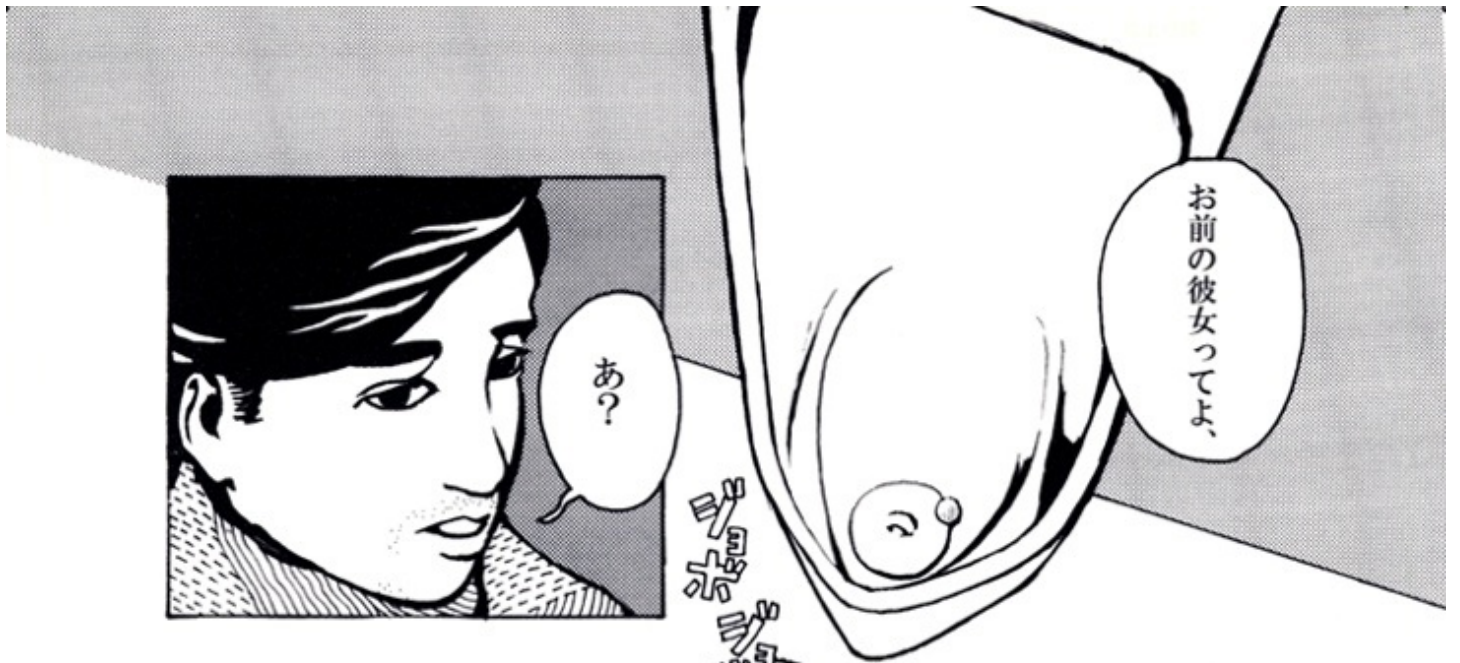


僕は自分を  
 信じる事ができない

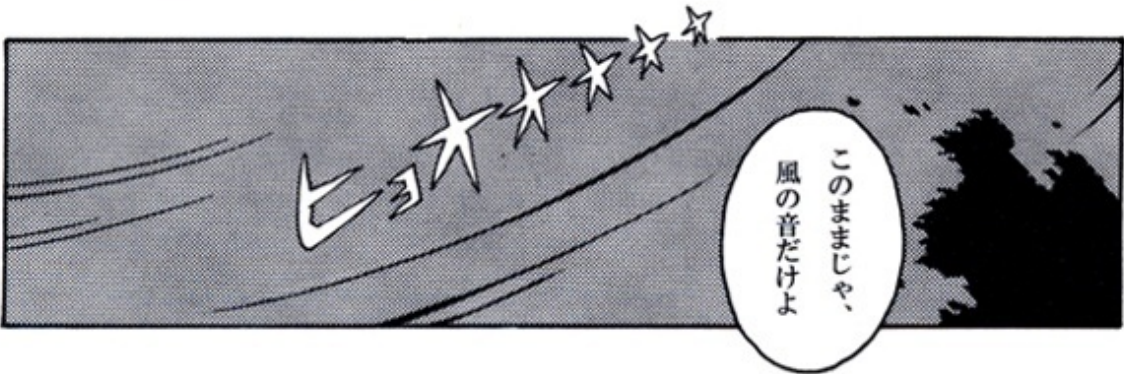
だからボイスレコーダーに  
 頼ってみたわけだが、

そこに録音された声を聞いたって、  
 安心できるかどうか分からない

音が消えれば  
 証拠はなくなる







僕はただ、





整理のつかない本音を晒すのは  
みっともないし、本当は僕だっていやだ  
でも、  
それを僕の中だけで済ましちゃうのは、  
何か違うと思うんだ



付き合っ  
て  
らんないわよ



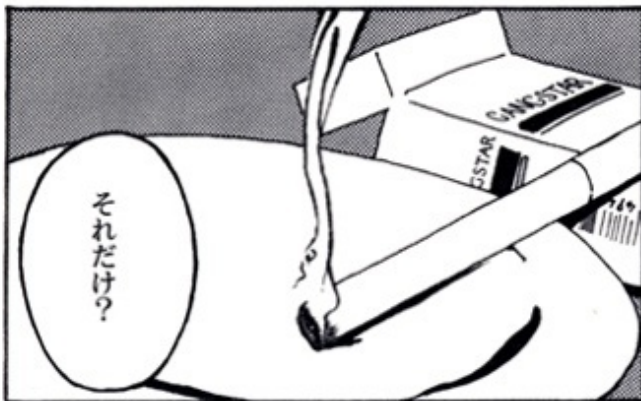
真剣なんだ



どうして  
言うのよ？

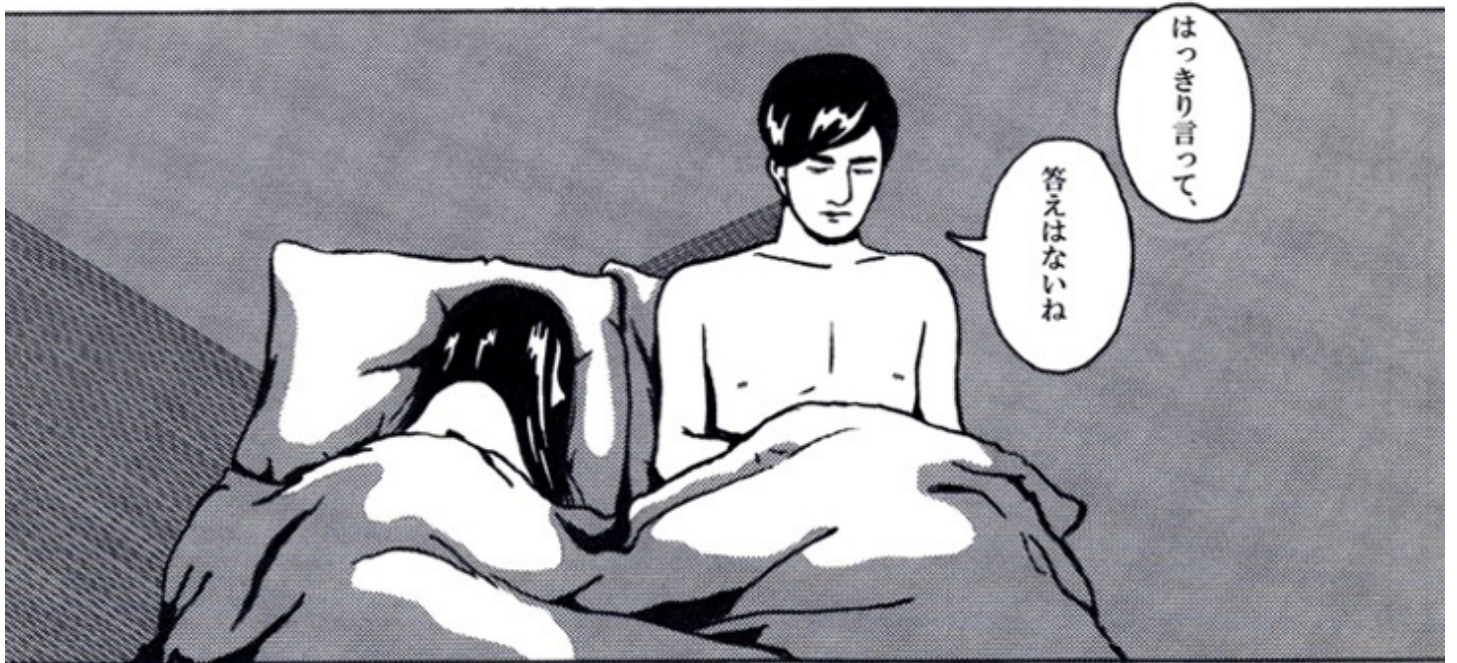


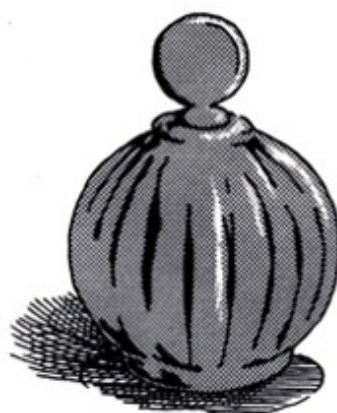
だって、それじゃ、  
本当にただの妄想に  
なっちゃうだろう？  
だから、











僕が中学一年生の時、  
目の前で人が死んだ

崖から足を  
滑らせたのだ



後で状況を訊ねられた時、  
僕は愕然とした

彼は僕の  
右手から落ちたのか、  
左手から落ちたのか、  
記憶の映像は二つあって、  
どちらが事実なのか  
区別がつかなかったのだ

自分が認識したものが  
世界、そんな考えに  
私は少しも賛同できない

何故なら、これだけは  
自信を持って言えるが、  
私は私自身に全く自信を  
持てないからだ

認識は外から与えられる  
自分の中にあるのは  
解釈だけ

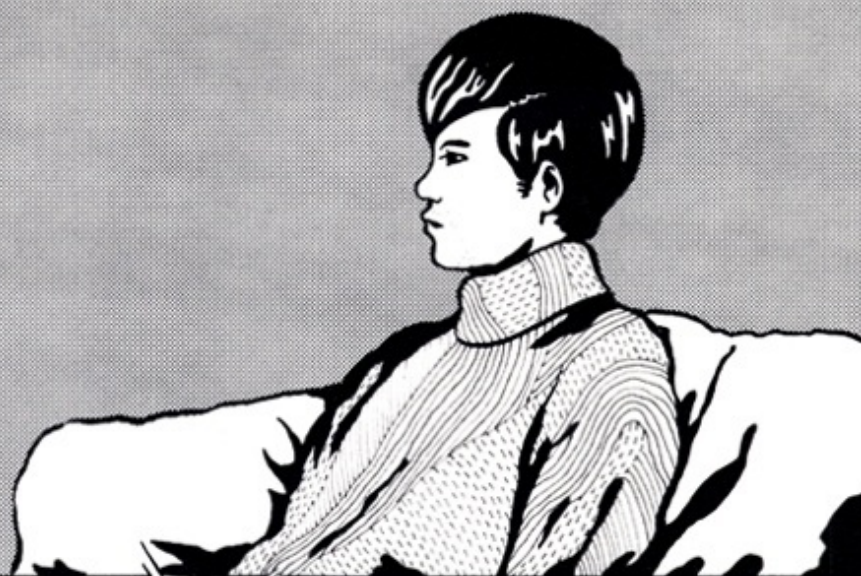
解釈は  
世界じゃない

世界が平らだと  
信じられていた時代も  
地球は丸かった





それから僕は  
確信なんて持てない



思い込みは  
人を死に向かわす  
ことはあっても、  
殺すことはない

思い込みは、  
ただ、  
人を狂わせるだけ



確信の持てないまま、  
記憶が増えていくんだ

